

令和3年度第2学期終業式式辞

校長 澤山 陽一

長かった二学期も今日で終了です。私は、2学期の始業式で、「生徒の皆さんにヒマワリのように、成長期である今は素直な気持ちで知識や技術を身に付けるために、あらゆる方向、あらゆる分野に興味を持ち、最終的に自分の方向を定めたら、しっかりそこでエネルギーを蓄えてほしい。」という話をしました。

この2学期を振り返ると、多くの制限はありましたが、運動会や農業祭などの行事のすべてが、みなさんのおかげですばらしいものになったと思います。また、他校から多くの先生が来られた学校訪問研修では、「挨拶がすばらしい、楽しそうに授業に臨んでいる」など多くの好評をいただきました。

部活動においては、ライフル射撃部の福岡選手がジュニアエアガン大会で日本一、久保選手が東アジアユースエアガン大会で日本代表として出場し見事8位入賞、陸上部の門田選手が県新人大会において円盤投げで優勝するなど輝かしい成果をあげました。農業クラブにおいては、四国大会のプロジェクト発表部門で食品化学班が最優秀、食物班が優秀、食品化学班は全国大会に出場の成果を収めました。

また、3年生の皆さんもほぼ進路が決定しています。本当に苦しい時期もあったと思いますが、皆さんの日々の努力がこの結果に結びついているのだと思っています。これら二学期の多くの成果は、生徒の皆さん一人一人の努力のたまものであり、また生徒のために心を尽くして努力してくださっている教職員のおかげです。みなさん、本当にありがとうございました。

さて、話は大きく変わりますが、皆さんはカタツムリをよく観察したことが

ありますか。カタツムリの殻が左巻きなのか右巻きなのかどっちだと思いますか。文献を調べると、カタツムリに限らず、巻貝のほとんどが右巻きのようにです。しかし、沖縄には左巻きのクロイワヒダリマキマイマイというカタツムリがいるようです。また意外なことに、沖縄には、カタツムリを主食とするイワセキヒダカヘビというヘビがいるようです。このヘビはカタツムリを食べやすいように顎に特徴があるそうです。しかしその特徴は、大多数を占める右巻きの殻を持つカタツムリを食べやすい特徴であり、稀にみられる左巻きのカタツムリを食べることができないようです。きっと、このカタツムリは突然変異で生まれてきた左巻きのカタツムリがヘビに食べられることなく進化していったものと思われています。ごくまれにみられた少数派である左巻きが最終的に天敵から身を守ることができる種類へと進化したのです。

人間においても特に日本人は、利き手が左か右かということだと右利きの人が多く、これまでは、いろんな道具も右利きが使うのに有利に作られていて、左利きの人はやむをえず使いにくい道具を使わなければならない状況でした。しかし、現在は、左利き用のはさみや、コードレスのアイロンなどその対応も進み左利きの人にも過ごしやすい社会になってきていると思います。

人間社会には、利き手がどちらかということだけではなく、何事においても多数派と少数派が存在すると思います。また同様に少数派の人は何らかの不自由を抱えていると思うのです。そこで、社会全体ですべての人が快適に過ごすためには常に、少数派の気持ちを想像し、生活様式を進化させることがとても大切だと言えます。

本校は、授業内で実験や実習が多く、作業中にそのようなことを想像できる

機会に恵まれていると思います。生徒の皆さんには、ぜひ「少数派の気持ちを想像する」意識を大切にして日々を過ごし、多くの人から頼られ信頼される人に成長してほしいと思います。

いよいよ明日から、冬休みです。冬休みの細かい注意事項は、担任にお任せしていますが、一日一日を無駄に過ごすことなく、全員が充実した冬休みを送り、始業式には、また明るい笑顔を見せてください。よろしくお願いします。

以上です。

参考 「かたつむりお前もお前も右巻きか」 永野孫柳